

人がつくり、 人が動かす交通

若林 拓 教授

Prof. Wakabayashi Hiroshi

交通の計画

3年前期／選択科目・選択科目（地域計画科目群）

交通は「人の心」がある現象

—「交通の計画」の講義では、どのようなことを学びますか？

「交通の計画」とは、交通工学に基づいて**都市交通と地域交通のあり方**について計画する学問です。効果的な交通計画には、現象の理解が必要不可欠。交通の性質をきちんと知ることが重要です。それを知った上ではじめて、交通の性質を生かすような交通計画ができるのです。

最初に、交通の調査、交通流の性質について学びます。こうした基礎をしっかりと身につけることで、いずれは所要時間の予測や、渋滞の予測などもできるようになります。それをするための基礎を学ぶ講義が、この「交通の計画」です。

—交通を学び、深めることの奥深さや面白さとは？

交通は、自然科学と違って社会科学です。数学的に導き出すものではありませんが、**交通には「人」が必要不可欠で、そこに「人の心」がある現象**です。様々な選択肢を与えたり、システムを構築しても、それを最終的に選び、動かしていくのは人間です。交通は、そこに面白さや奥深さがあると思っています。だからこそ、学生たちにも自分の頭で考え、自分なりの答えを導き出すことを大切にしてほしいと伝えています。

学びの原動力を見つけよう

—若林先生が、交通の道に進んだきっかけを教えてください。

高校生の頃、毎朝京都の市バスの満員通過に苦しめられたことがきっかけでした。毎日「これをなんとかしたい」と思うようになっていったんです。バスの満員通過はもちろん、マイカーの増加や渋滞も大問題だと感じていましたし、当時はこれらは全て、行政の怠慢だなんて思い込んでたんです。それがきっかけになり、大学で交通の研究室に入れていただきました。学んでいくうちに、これらが行政の怠慢ではないことは、すぐにわかったんですけどね。

—今「問題解決がしたい」という志の学生も多いですか？

私の研究室にも、いろいろな志を持った学生がいます。中には電車が好きでこの道を志している者もいますし「電車のダイヤを組んでみたい」という学生もいます。理由は何であれ、私はこれこそが**勉学や研究の原動力**だと思います。好きなことや得意なことはもちろん、「こんなことを解決したい」と思うことが、興味のある分野を見つけるきっかけになると思います。学生時代に、自分の得意分野は何か、伸ばすべき分野は何かを得心して、その武器を持って社会に出てほしいと思っています。

若林先生の必需品

must have!

自分の頭で考えることが重要

「誰かに教えてもらったり拝借してくるばかりではなく、自分の頭と手を使ってゼロから考えること」。モノや情報に頼りすぎず、自分の中から生み出すことが重要です。



学生の声



石塚 一輝 さん（3年生）

若林先生は、講義中に、実際の交通事例についても紹介していただけます。事例の中には痛ましい交通死亡事故などもありましたが、交通工学の専門家である先生から、実際に起こった事故についての意見を聞くことができるのは大学の講義ならではの醍醐味だと思います。とても貴重な講義でした。